様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ８ 月　 ３ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2012～2016
課題番号：２４３１０１９４

研究課題名（和文）冷戦時代の国際女性運動

研究課題名（英文）International Women's Movement during Cold War

研究代表者
藤目　ゆき（Fujime, Yuki）

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：６０２２２４１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、国際民主女性連盟（WIDF)を中心として冷戦時代に展開した国際的な女性運動に注目し、その歴史的意義を明らかにした。本研究では東西両陣営の女性たちがWIDFに参加した動機、思想・信条に着目し、彼女たちの個人史を明らかにした。また、婦人国際平和自由連盟（WILPF)のような他の国際女性団体や、世界平和評議会（WPC)のような国際平和団体や無名の草の根の女性運動にも着目し、武力紛争・外国軍駐留・核開発競争が女性に与えたインパクトと国際的な反戦・反核運動において女性が果たした役割を研究した。

研究成果の概要（英文）：In this study we explored the history of the international women's movement during the Cold War and clarified its historical significance by focusing on the International Democratic Women's Federation (WIDF), in which many women participated from both the eastern and western block of the Cold War. We gave attention to not only its public activities but also personal histories of those women who activly participated in WIDF. We also made researches on other international women's organizations like the Women's International Peace Freedom Federation (WILPF) and international peace organizations like the World Peace Council (WPC) as well as grass-roots women. We explored what armed conflicts, foreign military stationing and nuclear development competition gave impacts on women and what roles women made in those international peace movement in the world.

研究分野：歴史学

キーワード：国際民主女性連盟　WIDF　婦人国際平和自由連盟　WILPF　世界平和評議会　WPC

１．研究開始当初の背景

研究代表者は、応募に先立つ十余年にわたって、冷戦がジェンダーに与えたインパクトと冷戦に抗する女性運動を主題に研究に取り組んできた。2001 年～2002 年度には科学研究補助金基盤研究(C)「東アジア冷戦とジェンダー」、2004 年度～2007 年度には科学研究補助金基盤研究(A)「アジア現代女性史の研究：北東及び東南アジアにおける軍事主義とジェンダー」の交付を受けて、アジア女性の歩みを冷戦史の流れの中に位置づけ、戦争や軍事主義が女性に与えた影響を考察した。この課題をさらに探求するため、アジア現代女性史に影響を与えた国際的な女性運動に関する調査を目的に、2009～2011 年度には科学研究補助金基盤研究(C)「アジア現代女性史の研究：冷戦時代の国際女性運動とアジア」の交付を受け、WIDF が第二次世界大戦中のヨーロッパにおける反ファシズム・レジスタンスのネットワークを基盤として成立したこと、大戦後の民族独立運動への支援や女性国際会議の開催、平和運動や原水爆禁止運動などを通してアジアの現代女性史に重大な役割を果たしたことを明らかにした。本研究は、以上のような冷戦とジェンダーを主題とする研究を継続・発展させ、対象地域をアジアに限定せず、世界に視野を広げて行おうとしたものである。

このような冷戦時代の国際女性運動に関する学術研究が冷戦時代の西側に属した諸国では従来重視されていなかった。1950 年代の WIDF が社会主義諸国と結びついていたために欧米のリベラル・フェミズムに無視されがちであったこと、そこから「1950 年代は女性運動の空白時代」という誤認が生じたこと、また 1960 年代以後の中ソ対立や 1980 年代末のソ連・社会主義の崩壊などを背景に WIDF が次第に弱体化していったことなどがその理由として挙げられる。だが、近年、フランシスカ・デ・ハーンやウエンディー・ポジュマンらが、巨大な規模を持ち世界女性運動に重要な役割を果たした WIDF が世界の既存の女性史叙述において無視され叙述されずにいること、女性史研究の世界で東西冷戦の終焉以後もなお冷戦的思考が継続していることを批判して、WIDF 創立過程や国連女性差別撤廃条約の実現に WIDF が果たした役割、従来西欧中心であった女性史に対して、南東欧や北欧の WIDF 加入組織の展開した運動に関する実証研究を相次いで発表している（特に Francisca de Haan, ‘ Continuing Cold War Paradigms in Western Historiography of Transnational Women's Organisations: the case of the Women's International Democratic Federation (WIDF) ’ ,Women's history review. 19(4), Sep 2010, pp 547-573 及び Wendy Pojmann, For Mothers, Peace and Family. Gender & History. 2011, 23(2), p.415-429 参照）。研究代表者はこのような新しい研究動向に励まされ、それらの重要な視点と研究成果から学ぶとともに、それらには欠けているアジア女性史の視点を加えることによって WIDF が展開した世界女性運動の全体像に迫ることができるのではないかと考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、国際民主婦人連盟（WIDF）や婦人国際平和自由連盟（WILPF）といった国際女性団体と冷戦期のヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジアの諸地域における女性運動に着目し、資料を収集、分析し、女性運動が果たした世界史的役割を実証的に明らかにすることである。

具体的には、第一に朝鮮戦争をはじめとする冷戦下の武力紛争に対して WIDF が展開した平和運動の意義を検証し、この運動に参加した世界の女性たちの意識、思想、信条、個人史に光をあて、20 世紀のフェミニズム史における WIDF の意義を考察することである。

第二に、世界の反基地・反核運動とそれに結びついた女性運動に関する資料を収集し、外国軍駐留地域の軍事的性暴力と売春女性の運動、冷戦下の軍事拠点としての「ヒロシマ」などに注目して、冷戦下の外国軍の長期駐留や核軍拡競争がジェンダーに与えたインパクトと女性運動の意義を明らかにすることである。

３．研究の方法

研究代表者と研究分担者・連携研究者及び研究協力者の研究組織を組織し、適切な役割分担によって日本内外の文献・口述資料・ビジュアル資料を収集する。

適宜研究組織の研究会を開催し、調査の中間報告と意見交換を行う。

アジア現代女性史研究会の年報『アジア現代女性史』第 8 号～第 11 号（2013 年～2017 年）の毎号に冷戦時代の国際女性運動に関する特集を組み、論文・資料紹介・翻訳成果・調査報告を発表し、研究組織内外の意見交換と議論の深化をはかる。

４．研究成果

(1)国際民主婦人連盟(WIDF）に関しては、東西ドイツ、ベルギー、朝鮮民主主義人民共和国、中国、インド、キューバの WIDF 加盟団体の資料を収集して翻訳・分析した。

特に朝鮮戦争中に WIDF が朝鮮へと派遣した国際女性調査団に関しては、英国のモニカ・フェルトン、ドイツのリリー・ベヒターをはじめとして、イタリアのエリザベス・ギャロ、フランスのジレット・ジーグラー、朝鮮の朴正愛と許貞淑、中国の劉清揚、白朗、李鏗、キューバのカンデラリア・ロドリゲ

ス・ヘルナンデス、デンマークのケイト・フレロン・ヤコプスンとイーダ・バクマン、チェコスロバキアのミルシェ・スバトショバ、ソ連のマリア・オブシアンニコワのような、日本ではあまり知られていない女性活動家たちについて調査を行い、朝鮮戦争即時停戦を求めてくりひろげられた国際平和運動の世界的ネットワークの意義を明らかにした。

ドイツに関しては WIDF 書記局がベルリン設置されていた時期が長いため、旧東ドイツ女性組織に関して特に重視し、ドイツ在住のウルズラ・シュレーター氏と斎藤瑛子氏の協力を得て、調査を実施した。

これらの研究成果の一部を、『アジア現代女性史』第 11 号において、特集記事「WIDF 調査団に参加したヨーロッパの女性－レジスタンスから朝鮮戦争停戦運動へ」として発表することができた。

(2)基地や核兵器に反対する世界の女性たちの平和運動に関しては、WIDF 以外にも、婦人国際平和自由連盟(WILPF)や世界平和評議会(WPC)、核軍縮キャンペーン(CND)のような冷戦時代の国際平和運動に重要な役割を果たした団体の取り組みや、特に団体に参加しないまま地道な草の根活動に取り組んだ女性たちの経験にも着目した。

日本国内の調査では、長崎市・佐世保市・福岡県添田町・北九州市・岩国市・広島市、神奈川県公文書館、福生市、長岡市、群馬県榛東村・岩手県二戸郡小繋村・青森県八戸市などで調査を行い、1955 年にスイスのローザンヌで開催された世界母親大会参加者に関する資料収集や米軍基地周辺の女性史に関する調査を行った。海外調査では、レジスタンス博物館・戦争博物館などの見学と文献収集の他、イタリアのビチェンツァ基地や英国のファスレーン基地の周囲で活動している平和団体やピースキャンプを訪ねてインタビューを行った。特に英国では WIDF の加入団体である全英女性会議（NAW）で活動してきた女性たちや 1980 年代のグリーナムコモン平和キャンプに参加したマリー・ミリントン氏らとの交流を通して視野を広げることができた。

特に被爆 70 周年であった 2015 年には韓国現代史研究者である梁東淑氏とヨーロッパの反核女性運動に詳しい著作家である近藤和子氏らの協力を得て、スコットランドで長年平和運動・女性運動に従事してきたジャネット・フェントン氏（元 WILPF 英国代表）とデビッド・マッケンジー氏（スコットランド CND）を日本に招待し、大阪市内において反核フェミニズムを主題とする映画と講演の集いを催した他、米軍基地が拡張されつつある岩国の住民の集いや広島市で開催された世界被爆者フォーラムに共に参加することができた。また 1950 年代の CND 創設期から平和運動に関与してきたフェントン氏の今日までの経験について滞日中にまとまったインタビューを実施することができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 21 件）

①藤目ゆき「モニカ・フェルトンとＷＩＤＦ朝鮮戦争真相調査団」(朝鮮語)『社会と歴史』（韓国）第 100 号、2013 年、279-322 頁、査読無し

②藤目ゆき「モニカ・フェルトンの軌跡 1952-1956」『アジア現代女性史』第 8 号、2013 年、6-32 頁、査読無し

③藤目ゆき「現代の軍事的性暴力と『慰安婦』問題」『アジア現代女性史』第 8 号、2013 年、120-123 頁、査読無し

④木戸衛一「ウルスラ・シュレーターの「社会主義的家父長制論をめぐって」『アジア現代女性史』第 8 号、2013 年、40-92 頁、査読無し

⑤今岡良子「モンゴルの女性史家 E.チメッドツェレンの履歴と著作リスト」『アジア現代女性史』第 9 号、2014 年、74-79 頁、査読無し

⑥木戸衛一(翻訳)「私は真実を述べた リリー・ヴェヒター：平和のための闘いにおけるドイツ女性の模範」)（フリードリッヒ・カウル著）　『アジア現代女性史』第 9 号、2014 年、36-73 頁、査読無し

⑦藤目ゆき「モニカ・フェルトンの初期原水爆禁止運動への貢献－インドからの発信ラジャゴパラチャリ『人類は抗議する』の編集と出版について 」『アジア現代女性史』第 9 号、2014 年、6-34 頁、査読無し

⑧藤目ゆき「WIDF 国際女性調査団に参加した 3 人の中国人女性－　劉清揚・白朗・李鏗『アジア現代女性史』第 9 号、2014 年、134-152 頁、査読無し

⑨藤目ゆき「モニカ・フェルトンの初期原水爆禁止運動への貢献」『アジア現代女性史』第 9 号、2014 年、6-34 頁、査読無し

⑩藤目ゆき「抗美援朝の中国を訪れて－瀋陽・丹東への旅」　『アジア現代女性史』第 9 号、2014 年、82-87 頁、査読無し

⑪藤目ゆき「「従軍慰安婦」問題」牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ：女性学・男性学を学ぶ』(大阪大学出版会)2015 年 4 月、218-237 頁、、査読無し

⑫木戸衛一「負の過去と向き合い、新たな時代への責任を切り開くドイツの営み」『まなぶ』201、2015 年、18-22 頁、査読無し

⑬藤目ゆき「カンデラリア・ロドリゲス・ヘルナンデス－朝鮮民主主義人民共和国を三度訪れたキューバ人女性」『アジア現代女性史』第 10 号、2015 年、90-107 頁、査読無し

⑭藤目ゆき「三宅義子先生　著作リスト」『アジア現代女性史』第 10 号、2015 年、6-11 頁、査読無し

⑮藤目ゆき「追悼　三宅義子さん」『アジア現代女性史』第 10 号、2015 年、12-21 頁、査読無し
⑯藤目ゆき「フェミニズムとマルチカルチュラリズム」『共生学が創る世界』大阪大学出版会、2016 年、65-77 頁、査読無し
⑰藤目ゆき「ケイト・フレロン・ヤコプスン－デンマークのレジスタンスから国際平和運動へ」『アジア現代女性史』第 11 号、2017 年、8-31 頁、査読無し
⑱木戸衛一「『ノイエス・ドイチュラント』紙のリリー・ヴェヒター関連記事に寄せて」『アジア現代女性史』第 11 号、2017 年、64-69 頁、査読無し
⑲今岡良子「モンゴルの地下資源開発の現場－モグラのように生きる『ニンジャ』の女性たち－」『アジア現代女性史』第 11 号、2017 年、96-105 頁、査読無し
⑳藤目ゆき（抄訳・解説。エネビシと共著）「第二回原水爆禁止世界大会に出席したソビエト代表 A・ソフローノフの旅行記」『アジア現代女性史』第 11 号、2017 年、8-31 頁、査読無し
㉑藤目ゆき「ジャナキ・クリシュナン－インドとロシアの友好運動に捧げた人生」『アジア現代女性史』第 11 号、2017 年、120-132 頁、査読無し

〔学会発表〕（計 3 件）
①藤目ゆき「広島湾地域の軍事化と性暴力」日本平和学会２０１３年度春季研究大会、大阪大学、2013 年 6 月 15 日-16 日
②木戸衛一「東ドイツと広島」第 24 回西日本ドイツ現代史学会、広島市立大学、2014 年 3 月 28 日-3 月 29 日
③今岡良子「ミツバチと暮らす人々の挑戦–その意義と課題を考える」日本モンゴル学会 2016 年度秋季大会、大谷大学、2016 年 11 月 26 日

〔図書〕（計 3　件）
①藤目ゆき（編集・監訳・解説）『「知識の木」を植え育てる：元インド警察職・社会事業家 N.クリシュナスワミ』（N.クリシュナスワミ著／池田高巌訳） アジア現代女性史研究会、総頁数 41 頁、2013 年
②木戸衛一編『平和研究入門』大阪大学出版会、総頁数 299 頁、2014 年
③藤目ゆき『「慰安婦」問題の本質－公娼制度と日本人「慰安婦」の不可視化』 白澤社、総頁数 204 頁、2015 年

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
藤目　ゆき（FUJIME YUKI）
大阪大学・大学院人間科学研究科・教授
　研究者番号：60222410

(2)研究分担者
木戸　衛一（KIDO　EIICHI）
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授
　研究者番号： 70204930

今岡　良子（Imaoka Ryoko）
大阪大学・世界言語研究センター・准教授
　研究者番号：50273735

(3)連携研究者
　研究者番号：

(4)研究協力者
宋連玉（song, eoun-ok）
松田　祐子（Matsuda　Yuko）
西田　千津（Nishida Chizu）
梁　東淑（Yang Dongsook）